

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和二年七月度 入選句 (投稿総数千五百四十二句・小中学投句数千八句)

特選

選者 長町 誠司

かけぬけるせみのこえふるグラウンドに 加茂郡川辺町おぐり たいち中二

せみは夏の季語。「せみ」の持つイメージは、(精一杯・意欲的・騒々しい・儂い)など色々ありますが、この句の場合には「精一杯」がぴたり合うように思います。難しい言葉かもしれませんが、「本意・本情」と言います。こうして季語の力を借りて俳句を作ると、読者の想像力をかきたせると同時に、共感を得ることが出来ます。「かけぬける」と言いながらも、かけぬけたいのは作者自身かも。青春だなあ。いや今はアオハルというのかな。中学二年生の作者。

二百メートル泳げた夏をわすれない 大垣市 加納 都和子(小五)

よくがんばったね。「泳げた」という言葉から、達成感と満足感が窺えます。さらに、「忘れな」という言葉からは、「この事実をいつまでも心に留めて、(くじけそうになつた時は思い出してがんばるぞ)」という将来への意気込みを感じます。

水泳は泳力に応じて、種目別に「級」が認定されます。何度でも挑戦できますが、合格するためには努力が必要です。二百メートル泳ぎきったくじけない精神力は、この先も作者の心の支えとして活かされるに違いありません。

すいかわりみぎだひだりだわからない 大垣市 三日月 はるま小二

小学校二年生の作者。目かくしをされ、長い棒をもち、恐る恐る前へ進む作者の戸惑う姿が思い浮かびます。この句、「みぎかひだりかわからない」と書くと、作者自身の思いの入ったありきたりな俳句となつてしまいます。しかし、「みぎだひだりだわからない」としたことで、周りからの声援や歓声など、その場の臨場感が読者によく伝わり、いつその迫力ができました。結果はどうでしたか?うまく割れたのでしょうか。作者に会えたら聞いてみたいなあ。

秀逸

風鈴の音色と共に日が暮れる 加茂郡川辺町 樋口 翔太(中二)

もこもこのオカメイenkoとなつものそら 大垣市 谷 沙 雪(小三)

あとちよつと泳ぎ続けて夏の空 大垣市 細 谷 凜(小五)

白さぎも青田の中で宝さがし 大垣市 大和田 真瑚(小五)

けんだまでゆかがへこんだ梅雨曇 大垣市 古 川 葵(小五)

新品の水着を着る家の中 大垣市 只野 真奈花(小五)

トンボきてぼくのじてんしゃにとまったよ 大垣市 林 未来也(小二)

ザリガニに名まえをつけたウデッポウ 大垣市 嶽本 蓮斗(小二)

とうさんとあさの三時にメバルつる 大垣市 松岡 煌斗(小四)

熱帯夜父のいびきがフェスティバル 大垣市 平林 大空(小五)

入選

清流に声をひそめて見る蛍	加茂郡川辺町	渡邊 心太朗(中二)
グラントで汗をたくさん流す夏	加茂郡川辺町	長谷川 時人(中二)
かき氷頂上めざして歩こうか	加茂郡川辺町	川崎 愛心(中二)
父親と見に行きたかった甲子園	加茂郡川辺町	後藤 飛侶(中二)
夕焼の向こうを思いあすをまつ	加茂郡川辺町	坪内 來斗(中三)
母の日に雪をあげたら笑われた	高山市	内山 葵(中二)
楽しいな自由研究 豆そだつ	大垣市	早野 麻莉奈(小四)
夏やさいカレーに入れて食べたいな	大垣市	松川 明愛(小四)
スイカ割り目かくしはずすスイカない	大垣市	若園 理央(小六)
サーフィンに初めてののってすぐおちる	大垣市	山田 一颯(小六)

入選

雨の日は道路にミミズがたくさんだ	大垣市	伊藤 楓 夏(小四)
じいちゃんにざりがにをつりをおそわった	大垣市	つちや なおき(小二)
ラムネだまべろをつっこむとれないよ	大垣市	高橋 怜(小二)
はんもつくぶんぶんゆらせねえちゃん	大垣市	小川 昊輝(小二)
かきごおりブルーハワイはなんのあじ	大垣市	島部 莉緒(小二)
プカプカとコロナわすれるなつのうみ	大垣市	日比野 杏(小二)
太陽のちからをかりる夏の空	大垣市	あさの こうせい(小四)
雨上がりふたつのにじが重なった	大垣市	伊藤 百花(小四)
くいせ川めだかの子ども登校中	大垣市	かわぞえ さくや(小四)
ザリガニはボルトのようにしゅん速だ	大垣市	久野 楓 真(小五)

選者吟

夏の雲できつこないをやってみろ

誠

司